

(8) 交流及び共同学習を経験しての変化（複数回答）（V問9）

問8で、満足している理由として「交流及び共同学習が充実しているから」と回答した人に、交流及び共同学習を経験しての変化を尋ねたところ、「障害に対して他の子どもや保護者の理解が深まった」が44.4%（12人）と最も多く、次いで「地域に友達ができた」と「障害のない仲間と積極的に交流する力がついた」がともに33.3%（9人）であった。

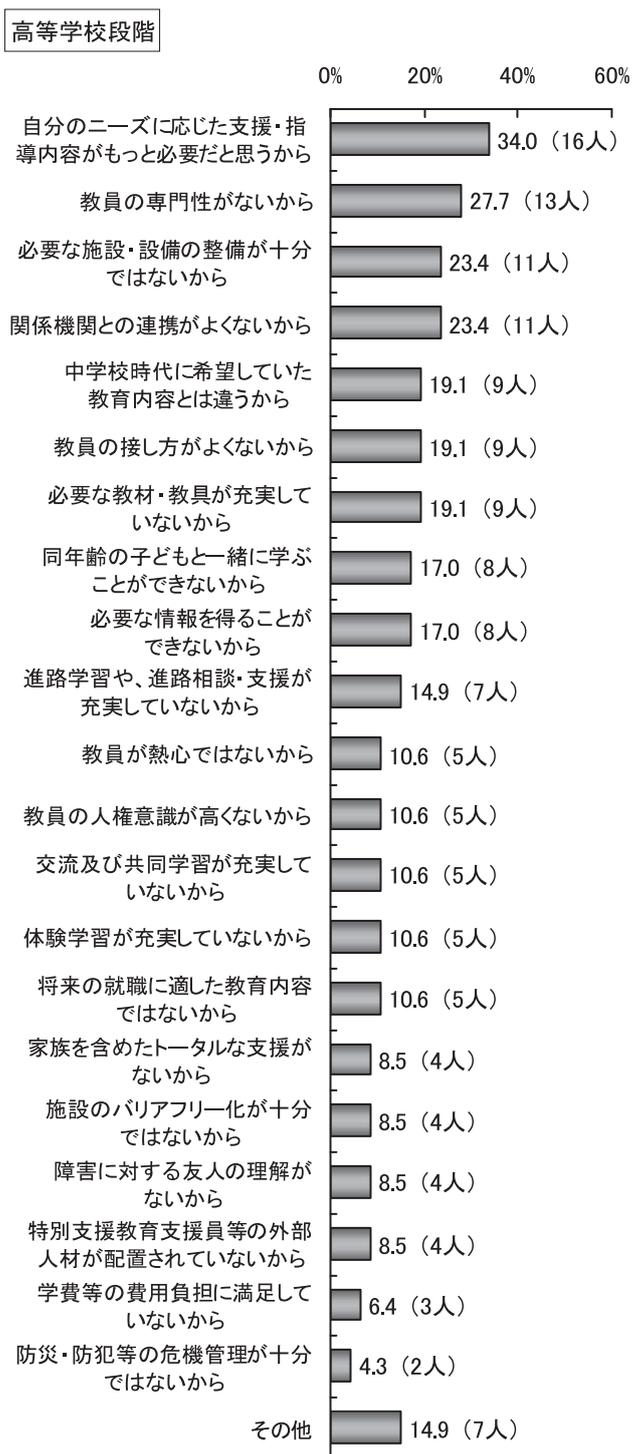
交流及び共同学習を経験しての変化（複数回答）

障害に対して他の子どもや保護者の理解が深まった	地域に友達ができた	障害のない仲間と積極的に交流する力がついた	特に変わらない	その他	回答なし	回答者数
12	9	9	4	1	1	27
44.4	33.3	33.3	14.8	3.7	3.7	100.0

(9) 現在受けている教育に満足していない理由（複数回答）（V問11）

問7で「あまり満足していない」又は「満足していない」と回答した人の満足していない理由を見ると、「自分のニーズに応じた支援・指導内容がもっと必要だと思うから」が34.0%（16人）と最も多く、次いで「教員の専門性がないから」が27.7%（13人）、「必要な施設・設備の整備が十分ではないから」と「関係機関との連携がよくないから」がともに23.4%（11人）となっている。

現在受けている教育に満足していない理由（複数回答）



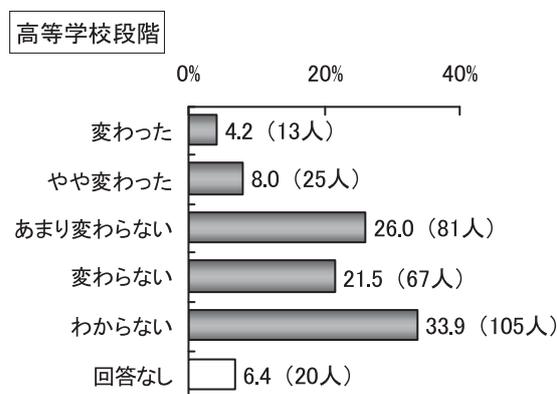
回答者数 47 人

(10) 特殊教育制度から特別支援教育制度になっての変化（V問13）（V問1×問13）

特殊教育制度から特別支援教育制度になっての変化を尋ねたところ、“変わった（「変わった」及び「やや変わった」の合計）”が12.2%（38人）、“変わらない（「あまり変わらない」及び「変わらない」の合計）”が47.5%（148人）、「わからない」が33.9%（105人）であった。

特殊教育制度から特別支援教育制度になっての変化について、通っている学校・学級別に見ると、「全日制高校」及び「特別支援学校専攻科」では「変わらない」がそれぞれ46.5%（13人）及び23.8%（5人）、「特別支援学校高等部」では「あまり変わらない」の29.5%（71人）がそれぞれ最も多くなっている。

特殊教育制度から特別支援教育制度になっての変化



回答者数 311人

特殊教育制度から特別支援教育制度になっての変化（現在通っている学校・学級別）

	変わった	やや変わった	あまり変わらない	変わらない	わからない	回答なし	合計
全日制高校	0 0.0	1 3.6	3 10.7	13 46.5	9 32.1	2 7.1	28 100.0
定時制高校	1 33.4	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	3 100.0
通信制高校	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
特別支援学校高等部	11 4.6	19 7.9	71 29.5	44 18.3	83 34.3	13 5.4	241 100.0
特別支援学校専攻科	0 0.0	2 9.5	4 19.0	5 23.8	10 47.7	0 0.0	21 100.0
その他	0 0.0	2 18.2	2 18.2	4 36.3	2 18.2	1 9.1	11 100.0
回答なし	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0	5 100.0
合計	13 4.2	25 8.0	81 26.0	67 21.5	105 33.9	20 6.4	311 100.0

(11) 特別支援教育制度になって変化したこと（現在通っている学校・学級別）（複数回答）（V問1×問14）

問13で「変わった」又は「やや変わった」と回答した人に、何が変わったかを尋ねたところ、「一人ひとりのニーズに応じた教育支援が行なわれるようになった」が60.5%（23人）と最も多く、次いで「教育、医療、福祉など様々な機関が連携するようになった」が28.9%（11人）、「障害に対する教員（学校）の理解が深まった」が10.5%（4人）であった。

また、変わった内容については、回答があった「全日制高校」、「特別支援学校高等部」、及び

「特別支援学校専攻科」のいずれの学校・学級でも「一人ひとりのニーズに応じた教育が行われるようになった」が、それぞれ100%（1人）、56.7%（17人）、100%（2人）と多くみられる。「特別支援学校高等部」では、次いで「教育、医療、福祉など様々な機関が連携するようになった」の30.0%（9人）が2番目に多くなっている。

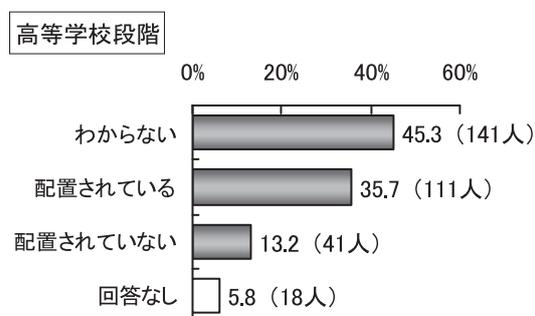
特別支援教育制度になって変化したこと（現在通っている学校・学級別）（複数回答）

	一人ひとりのニーズに応じた教育支援が行われるようになった	教育、医療、福祉など様々な機関が連携するようになった	教員の専門性が高まった	乳幼児期から学校卒業後まで一貫した教育支援が行われるようになった	障害に対する教員（学校）の理解が深まった	障害に対する他の子どもや保護者の理解が深まった	その他	回答者数
全日制高校	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
定時制高校	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	2 100.0
通信制高校	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
特別支援学校高等部	17 56.7	9 30.0	2 6.7	3 10.0	3 10.0	1 3.3	7 23.3	30 100.0
特別支援学校専攻科	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
その他	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
回答なし	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
合計	23 60.5	11 28.9	3 7.9	3 7.9	4 10.5	1 2.6	9 23.7	38 100.0

(12) 特別支援教育コーディネーターの配置状況（V問15）

通っている学校に特別支援教育コーディネーターが配置されているか尋ねたところ、「配置されている」が35.7%（111人）、「わからない」が45.3%（141人）であった。

特別支援教育コーディネーターの配置状況



回答者数 311人

(13) 特別支援教育コーディネーターへの相談経験（V問16）

問15で「配置されている」と回答した人のうち、特別支援教育コーディネーターに「相談したことがある」と回答した人は20.7%（23人）であったのに対して、「相談したことがない」と回答した人は78.4%（87人）であった。

特別支援教育コーディネーターへの相談経験

相談したことがある	相談したことがない	回答なし	合計
23	87	1	111
20.7	78.4	0.9	100.0

(14) 特別支援教育コーディネーターに相談しての教育内容の改善（V問17）

問16で「相談したことがある」と回答した人に、相談して教育内容が改善されたか尋ねたところ、「改善された（「改善された」及び「やや改善された」の合計）」が82.6%（19人）、「改善されない（「あまり改善されない」及び「改善されない」の合計）」はなかった。

特別支援教育コーディネーターに相談しての教育内容の改善

改善された	やや改善された	あまり改善されない	改善されない	回答なし	合計
8	11	0	0	4	23
34.8	47.8	0.0	0.0	17.4	100.0

(15) 特別支援教育コーディネーターに相談しない理由（複数回答）（V問18）

問16で「相談したことがない」と回答した人の相談しない理由を見ると、「学級担任に相談しているから」が67.8%（59人）と最も多く、「誰が特別支援教育コーディネーターなのかがわからないから」が18.4%（16人）であった。

特別支援教育コーディネーターに相談しない理由（複数回答）

学級担任に相談しているから	誰が特別支援教育コーディネーターなのかがわからないから	相談しても改善されないと思うから	その他	回答なし	回答者数
59	16	6	12	7	87
67.8	18.4	6.9	13.8	8.0	100.0

(16) 校内委員会の設置状況（V問19）

現在通っている学校に校内委員会が設置されているか尋ねたところ、「設置されている」が24.1%（75人）、「わからない」が59.5%（185人）であった。

校内委員会の設置状況

設置されている	設置されていない	わからない	回答なし	合計
75	30	185	21	311
24.1	9.6	59.5	6.8	100.0

(17) 「個別の教育支援計画」又は「個別の指導計画」の作成状況（V問20）

「個別の教育支援計画」又は「個別の指導計画」の作成状況を尋ねたところ、「『個別の教育支援計画』と『個別の指導計画』の両方が作成されている」が24.4%（76人）と最も多く、「『個別の教育支援計画』が作成されている」が21.2%（66人）、「『個別の指導計画』が作成されている」16.4%（51人）であり、「作成されていない」は8.7%（27人）であった。

「個別の教育支援計画」又は「個別の指導計画」の作成状況

「個別の教育支援計画」が作成されている	「個別の指導計画」が作成されている	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の両方が作成されている	作成されていない	わからない	回答なし	合計
66	51	76	27	72	19	311
21.2	16.4	24.4	8.7	23.2	6.1	100.0

(18) 「個別の教育支援計画」又は「個別の指導計画」の作成への参加（V問21）

問20で「個別の教育支援計画」又は「個別の指導計画」、もしくはその両方が「作成されている」と回答した人に、作成への参加状況を尋ねたところ、“参加した（「よく参加した」及び「まあまあ参加した」の合計）”が62.7%（121人），“参加していない（「あまり参加していない」及び「参加していない」の合計）”が35.2%（68人）となった。

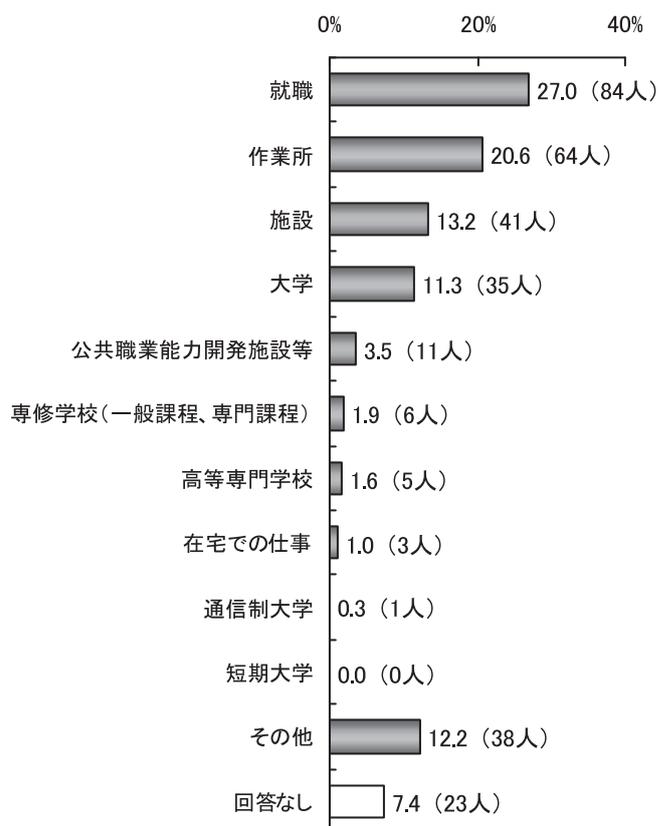
「個別の教育支援計画」又は「個別の指導計画」の作成への参加

よく参加した	まあまあ参加した	あまり参加していない	参加していない	回答なし	合計
37	84	41	27	4	193
19.2	43.5	21.2	14.0	2.1	100.0

(19) 卒業後の希望進路（V問22）

卒業後の進路として考えられているのは、「就職」が27.0%（84人）と最も多く、次いで「作業所」が20.6%（64人）、「施設」が13.2%（41人）、「大学」が11.3%（35人）であった。

卒業後の進路希望

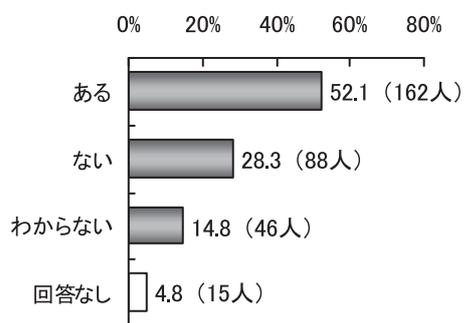


回答者数 311人

(20) 進路選択での悩みの有無 (V問23)

進路を選択するに当たって悩んでいることが「ある」と回答した人は52.1%(162人)であったのに対して、「ない」と回答した人は28.3%(88人)であった。

進路選択での悩みの有無



回答者数 311人

(21) 進路の選択で悩んでいる理由 (複数回答) (V問24)

問23で「ある」と回答した人の進路選択に当たって悩んでいる理由を見ると、「自分の適性が分からないから」が46.9%(76人)と最も多く、次いで「進路が決まっていないから」が35.8%(58人)、「希望する進路についての情報がないから」が21.0%(34人)、「進みたい進路について

の情報の集め方が分からないから」が16.7% (27人) となっている。

進路の選択で悩んでいる理由 (複数回答)

①

進路が決ま っていないから	自分の適性が 分からないか ら	希望する進路 先についての 情報がないか ら	将来希望して いる職業につ いての情報が ないから	相談にのって くれる人がい ないから	勉強について いけるかどう か心配だから	進みたい進路 の学費が高い から
58 35.8	76 46.9	34 21.0	20 12.3	3 1.9	24 14.8	8 4.9

②

進みたい進路 について家族 と意見が合わ ないから	進みたい進路 について先生 と意見が合わ ないから	進みたい進路 についての情 報の集め方が 分からないから	在宅になるか もしれないか ら	その他	回答なし	回答者数
3 1.9	3 1.9	27 16.7	16 9.9	32 19.8	2 1.2	162 100.0

(22) 進路の選択に当たって学校で指導してほしいこと (複数回答) (V問25)

進路選択に当たって、学校で指導してほしいこと、又は学校に対する要望を尋ねたところ、「卒業後の支援」が45.7% (74人) と最も多く、次いで「就業体験 (インターンシップ)、現場実習、上級学校訪問などの体験学習」が38.3% (62人)、「希望している進路先に関する情報の収集」が35.2% (57人)、「将来希望している職業に関する情報の収集」が25.9% (42人) であった。

進路の選択に当たって学校で指導してほしいこと (複数回答)

①

就業体験 (イン ターンシップ)、 現場実習、上級 学校訪問などの 体験学習	社会人や職業人 による講演・講 話	ホームルーム活 動などでの自ら の生き方に関す る進路学習	学校の先生の助 言	進路指導に詳し い外部専門家の 巡回相談	希望している進 路先に関する情 報の収集
62 38.3	18 11.1	18 11.1	29 17.9	34 21.0	57 35.2

②

将来希望してい る職業に関する 情報の収集	学校の先生の進 路指導や職業教 育についての理 解	卒業後の支援	その他	回答なし	回答者数
42 25.9	33 20.4	74 45.7	9 5.6	24 14.8	162 100.0

(23) 進路の選択で悩んでいない理由 (複数回答) (V問26)

問23で「ない」と回答した人の進路選択に当たって悩んでいない理由を見ると、「進路が決まっているから」が52.3% (46人) と最も多く、次いで「自分の適性が分かっているから」が20.5% (18人)、「進路を決めるまでにまだ時間があるから」が15.9% (14人) となっている。

進路の選択で悩んでいない理由（複数回答）

進路が決まっているから	自分の適性が分かっているから	学校が進路先を決めてくれると思うから。	家族が進路先を決めてくれると思うから。	進路を決めるまでにまだ時間があるから	その他	回答者数
46 52.3	18 20.5	5 5.7	8 9.1	14 15.9	9 10.2	88 100.0

(24) 進路が決まった契機（複数回答）（V問27）

問26で「進路が決まっているから」又は「自分の適性が分かっているから」と回答した人に、そのきっかけを尋ねたところ、「就業体験（インターンシップ）、現場実習、上級学校訪問などの体験学習」が43.5%（27人）と最も多く、「学校の先生の助言」が38.7%（24人）、「家族の助言」が35.5%（22人）、「卒業生の体験談と助言」が21.0%（13人）となっている。

進路が決まった契機（複数回答）

就業体験（インターンシップ）、現場実習、上級学校訪問などの体験学習	社会人や職業人による講演・講話	ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習	学校の先生の助言	家族の助言	卒業生の体験談と助言	進路相談に詳しい外部専門家の巡回相談	テレビや本などの情報から	その他	回答なし	回答者数
27 43.5	3 4.8	6 9.7	24 38.7	22 35.5	13 21.0	0 0.0	2 3.2	10 16.1	2 3.2	62 100.0